

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401053		
法人名	有限会社グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」にしありえ	ユニット名	
所在地	長崎県南島原市西有家町龍石1417番地1		
自己評価作成日	平成30年12月日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年2月7日	評価確定日	平成31年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな自然の中で、ご利用者の皆さんやご家族が安心して楽しく生活していただけるよう一人一人の状態に合わせ支援させていただきます。今までの生活歴を全職員が十分に把握し、その方に合った日常生活を送っていただき自由な時間を過ごしていただいています。また面会に来られたご家族が、利用者の皆さんや職員をいつでも気軽に話せる雰囲気づくりに努め、家庭的な環境を提供しています。地域の小学校が廃校になり、小学生との触れ合いが少なくなったが、法人内の行事等で子供たちとの触れ合い活動も継続できており、また、法人の合同(太鼓練習・音楽療法)活動も月に4回参加し利用者の日々の生活の原動力となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“「城下」にしありえ”は自然豊かな環境にあり、リビングや居室からの眺めも良く、つつじ等の季節の花を楽しまれている。職員は明るく、優しい職員ばかりで、ご利用者の楽しさを増やす取り組みを続けてこられた。一人一人のご利用者のプランターを準備し、皆さんで花植えをされたり、ご利用者と一緒「おにぎり」等を作り、馴染みの場所へのドライブや季節の花見を楽しまれている。日々の食事は3食手作りで、魚屋の移動販売もホームに来て下り、新鮮な魚などを楽しまれている。法人全体で様々な事業が行われており、ホームのご利用者も「おとなの学校」に参加される方もおられ、地域の方々と一緒に勉強し、校長(代表)から「修了証」を授与されている。法人内の“子どもシティ「城下」”や地域の保育園児との交流も楽しまれており、笑顔溢れるひと時になっている。法人内の研修(排泄支援や個人情報管理等)も行われ、職員のレベルアップに繋げている。重度化されている方々もおられ、今後も「有する能力」の把握と共に、ケアの手順書や留意点などを計画に追記し、日々実践していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	自己評価		外部評価		
	実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	老いても障害を持っても当たり前に分らなく普通に暮らしたい。を基本理念とし、毎朝朝礼で唱和し、実践につなげている。	長く勤務する職員が多く、「老いても障害を持っても当たり前に分らなく普通に暮らしたい」と言う理念の実践が行われている。昔からされていた事を“当たり前”にできる環境が作られており、一緒に花を育てたり、干し柿作りを楽しまれ、足湯や外食等に行かれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の小学校は廃校になり交流する機会は少なくなったが、保育園等の交流を盛んにしている。事業所の行事にも参加して頂き、日常的に交流している	地区のスポーツ大会に職員を派遣している。ホームの隣に地域の方が引っ越して来られ、仲良く交流されている。ホームに保育園児が来て下さり、お遊戯をして下さったり、法人の夏祭りの時に小学校のスポーツチームが出店の手伝いをして下さり、ボランティアの方が踊りを披露して下さい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験学習や高校生のボランティア支援学校の訪問など受け入れ多くの方に勉強していただけるよう機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月の活動内容を報告し、評価を頂いている。	ホームの取り組みや行事報告、職員の研修報告と共に、災害対策や地域行事などの話し合いをしている。地域の情報交換もできており、猪の出没状況を共有し、柵対策を検討したり、夏祭りの報告等も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に状況は報告し必要な時はアドバイスを受けるようにしている	施設長が広域に出向いており、疑問点を相談した時は丁寧に説明して下さい。広域連合や役場の方とは顔馴染みで、相談しやすい関係ができています。地域包括の方とも情報交換を続けており、“子どもシティ「城下」”の開設以来、複数の小学校との連携も深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会を設置し、2ヶ月に一回会議を行っている。三か月に1回研修会を開催し、拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や勉強会を続けている。ご利用者は穏やかに過ごされており、“身体拘束の無い”生活が送られている。ご本人の性格や生活背景を理解し、ご本人の想いに寄り添い、安心できる生活になるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修を行い又、外部研修などに参加し勉強する機会を設けている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の機関での研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族や本人に対し説明・同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族より意見や要望を聞き取り運営推進会議で公表し運営に反映されている	面会時に体調や暮らしぶりを報告している。新聞を作成し、担当者から手書きのお手紙を郵送している。「終末期の家族の対応」等の相談もあり、家族の意向を確認すると共に、お寺や葬儀社の希望を伺い、ホームで代行できる事をお伝えしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い個々の職員の意見を述べる機会を設けている。また、全ての会議に施設長が参加し全職員の意見を聴く機会を設けている	管理者会議等も行われ、法人全体で運営等に関する検討が行われている。職員からの相談も多く、代表や施設長が親身に相談に応じている。職員アンケートも継続し、職員全員が気持ち良く働けるように努めている。職員主体で「(新)城下体操」を考え、DVDを作成し、日々活用している。	法人全体で幅広い年齢層の職員が勤務しており、職員個々の育成支援を強化されている。今後も職員個々の年間目標を掲げる機会を作り、必要な研修参加や、内部研修の内容の検討に活かしていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況を把握し、希望する勤務時間の受け入れや能力が発揮できる職場環境になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な研修を受ける機会を設けて下さり働きながら学ばれている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで他施設の職員との意見交換する場がある		

自己 外部		自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族に、困っている事や要望を詳しく聞き出す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気軽に話せるような雰囲気づくりに心がけ、要望をしっかりと聞き取りより良い関係づくりに努めている。また直に管理者へ連絡できるように携帯番号をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人に色々なサービスの情報を提供し、一番本人に合ったサービスの提供を受けられるよう助言している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が職員に気を使われない様、家族のように気さくに接することができるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いがいい関係を保てるよう心掛け支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の支援など馴染みの関係が続くよう心掛けている	思い出の場所をドライブし、馴染みの神社にお連れしたり、馴染みの山や海沿いのドライブを楽しまれている。家族とお墓参りに行かれたり、施設長がお墓にお連れする時もある。親戚や友人、元同僚も来て下さり、居室やリビングで団欒されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中、休む時だけがそれぞれ別で過ごされるが、その他はいつも皆さん一緒に過ごすので支え合っていると思う		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先などであったときは、話をするように心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は把握し支援検討しながら出来るだけ思いをかなえる	日々の生活で思いや意向を把握し、「畑や田んぼを見たい」「お墓参りに行きたい」「外出したい」等の願いを叶えている。小浜町の「入潮」での外食も恒例で、足湯も楽しまれている。施設長が自宅訪問し、家族から要望を伺ったり、遠方の方は電話で情報交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方を出来るだけ崩さないよう、生活歴に注目して援助している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来る事や個々の過ごし方などしっかり把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	色々な関係者との意見を取り入れて介護計画に反映させ作成している	ご本人の意向と共に職員全員の意見を反映し、介護計画を作成している。音楽療法や和太鼓練習の参加を盛り込むと共に、日々の役割なども記入している。介護日誌の“キーワード”欄に計画内容を転記し、実践状況を記録している。	今後もADL(寝返り・立位・歩行等)、IADLの有する能力を記載すると共に、「できる事」「介助理由」「目標」「解決策」等の記録を増やす予定である。日課表に「できる事」「留意点」を追加していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡帳での情報をケア会議で話し合い介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態また、ご家族の状態等その人の環境に合わせて対応している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じて山菜取り、皮むきや果物収穫、また、施設の畑での作業などをして楽しまれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望で決めている。かかりつけ医との関係も良く、24時間連絡取れるようになっている	職員が通院介助しており、必要時は家族も同席し、受診結果を共有している。法人の看護師や訪問看護師の訪問があり、ホーム内で点滴や喀痰吸引が行われている。毎日協力医の往診があり、緊急時にもすぐに対応して下さる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師又は、協力医療機関のDr及び看護師に報告し、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに面会に行き洗濯物等は施設で受け持ち、病院側との連絡相談を常に受けられるように時間を作っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に看取り支援の説明を行うが、重度化の恐れがある場合は、その前に家族・主治医・管理者で十分に話し合いながら支援している	希望に応じて終末期ケアが行われている。医療の希望も把握し、24時間体制で主治医と代表、施設長、法人の看護師、訪問看護師との連携が図られている。体調に応じて家族間の話し合いをして頂き、今後の方針を検討している。施設長が、ご本人の不安(葬式やお墓等)に寄り添い、「最後まで看るから」と伝え、安心して頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命士より緊急時の対応について法人内で研修を行った		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に6回自主訓練や消防署と地域を入れての訓練を行っている。又施設の設備も全て整えている	2ヶ月毎に自主訓練している。毎年11月9日(119の日)に、消防署、消防団、地域住民と夜間想定訓練をしている。消防団の中の3人の方は地元であり、直接ホームに来て下さっている。自然災害(地震、台風、土砂災害等)を想定した訓練も行い、災害に備えて災害バックや水(3日分)、米、食料、手動式ラジオ等を準備している。系列法人や別法人の特養と協力体制ができている。	

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いは常に、人生の先輩だということを心がけ、ゆっくり丁寧に対応するようにしている	ご利用者個人の事を話す場合は、小声で話したり、自室で相談させて頂いている。「ちょっと待って」などの言葉は使わず、「待って」の前に理由を伝えており、失禁時は耳元で声かけし、小さな声で排泄状況の確認をしている。SNS発信を含め、個人情報管理の研修も続けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定しやすい雰囲気づくりを心掛けその人に合った対応で支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の対応を最優先として業務を行っている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や衣類など利用者の好みを尊重して支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にできる事はしていただき食事時には常に利用者と共に作業を行っている	調理専門職員等が美味しい料理を作られている。1日・15日は赤飯・刺身等を楽しまれ、栄養バランスに配慮しながら、その日に献立を考えられている。ご利用者と筍掘りやわらび採りに出かけ、フキや野菜の皮むき等もして下さる。今後も咀嚼や嚥下状態等に応じたケアの留意点を追記予定である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は行っていないが、個々の利用者に合った食事形態で行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や睡眠前、食事後には口腔ケア・状態チェックを必ず行っている			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し早めのトイレ誘導を心がけ本人様の自信につなげている	排泄が自立している方や、布の下着(パッド)を着用する方もおられ、パッド等の使用も個別に検討している。施設長が排泄ケアの講義をして下さり、日々のケア効果も出ており、失禁が減った方もおられる。尿意・便意を把握し、事前誘導や2人介助も行われ、快便に繋がっている方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように排便表を付け、かかりつけ医に相談して職員が把握して予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望・タイミングにあわせて、楽しんでもらっている	お風呂好きな方が多く、2人で仲良く入浴される方もおられる。入浴時は会話を楽しまれ、菖蒲湯や畑で収穫した柚子を浮かべている。広いお風呂であり、湯船の階段を降りる時は職員が支える時もあり、2人介助も行われている。今後も入浴の手順書や留意点を追記予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣や、身体の状態に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルに処方箋内容を保管し、副作用等全職員で理解できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	はなうえや家事作業等それぞれ個々の生活歴や力を生かした支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外出支援を多く取り入れる様、法人内の活動を多くして、合同で行うことにより、より多くの外出支援に繋がっている	天気の良い日は毎日外出されている。「城下」公園マップを作成し、トイレの場所等も記載している。ご利用者と「おにぎり」やお弁当を作り、「みそ五郎公園」でお弁当を食べたり、季節の花見を楽しまれている。小浜の足湯、佐賀の祐徳稲荷や大村の菖蒲見学にお連れしており、家族と外食や温泉(雲仙)に行かれる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族や親せきの方に電話できるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、外庭に植えたり光の明るさは目障りにならないよう調整している。またドアの開け閉め時などにも全職員が神経を使っている	玄関に一人一人のプランターを置き、花植えをして頂いている。リビングから畑を眺める事ができ、花好きな方には季節のお花を活けて頂いている。玄関や廊下、リビングに観葉植物が置かれ、行事や外出の写真、ご利用者の習字等を貼り、会話のきっかけになっている。季節に応じてお雛様を飾り、季節や月がわかるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に出入りできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身で使い慣れたタンス・寝具等を自由に持ち込んで頂き、心地よく過ごされるよう心掛けている	各居室は広く、眺めも良い。洋室と和室があり、箆笥やテーブル、座イス等が置かれている。家族の写真等も飾られ、観葉植物も元気に育っている。居室の入り口に段差がある所もあるが、ご本人が手すりを持って出入りされている。手すりがない箇所には椅子を置き、手すり代わりに活用されている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には大きな名札を貼り、トイレ・浴室等にも利用者がわかるように大きな文字で貼り混乱されないように工夫している		